「かしんの杜」（総合人材育成構想）活動を行っております。

かしんの地域貢献活動

経営の杜

かしん経営者フォーラム

参加企業の成長・発展と人材育成を目的として、大いなる事業繁栄と地域の活性化を目指し、平成25年7月に「かしん経営者フォーラム」を開講いたしました。県内企業の若手経営者、経営幹部、後継者の方々を対象に、各界講師による経済・経営・財務・マーケティング・人事・労務などの様々な経営に関する勉強を行っています。

第3期（平成27年6月～平成28年5月）は県内外で活躍する経営者を講師に招き、実際活躍されている経営者の経営哲学を鹿児島県の経済発展を担う次世代の経営者の方々へ伝えるセミナー形式として開催いたしました。

第3期かしん経営者フォーラム　カリキュラム内容

第3回テーマ

「逆境の経営から
事業継承までの軌跡
～今だからお話しできる
事業再生から
事業継承への道～」

講師

株式会社 吉野家ホールディングス
会長 安部 修仁 氏

第2回テーマ

「特化した商品開発で
全国へ営業展開、併せて
社内体制も180度方向
転換、人を大事にする
労務環境づくり」

講師

株式会社 マコセエージェンシー
代表取締役 五十嵐 芳明 氏

第1回テーマ

「企業経営と街づくり」

講師

株式会社 カワイ 代表取締役
宇宿商店街振興組合 理事長
鹿児島県商店街振興組合連合会
理事長 河井 達志 氏

地域の活性化を図るため、地域貢献として

「つなぐ力の発揮」

第3回 かしん経営者フォーラム
「逆境の経営から事業継承までの軌跡。～今だからお話しできる事業再生から事業継承への道～」
吉野家ホールディングス　会長　安部修仁氏

1949年生まれ福岡県出身。高校卒業後にプロのミュージシャンを目指して上京。バンド活動の傍ら吉野家でアルバイトを始め、1972年に正社員として入社。
数々の逆境を乗り越え、アルバイトからトップに上り詰めたカリスマ経営者として知られる。

「〝賢者、愚者に学び。愚者、賢者に学ばず。〟という言葉がございますが、私の今日お話しする事が、皆様の少しでもヒントになればと思います。」(安部氏)

吉野家は、当時日本橋にあった魚市場に個人商店として誕生。その後、魚市場が築地に移転したのに伴い、現在の一号店の場所に店を構える。その後法人化を図り現在に至るが、長年の経営の中で、成長と倒産から再建までの道程と吉野家という企業の在り方をお話頂きました。

魚市場・築地という特殊な土壌で生まれた吉野家

「吉野家が、魚市場で生まれたのには意味がある。場内は、食のプロの人達が多く忙しい環境にあった。そのため、美味しさとスピードが必要であり、品質の部分での美味しさ、サービスの中でクイックサービスは魚市場、後の築地でという土壌が育ててくれたのです。つまり吉野家の三要素である『うまい、はやい、やすい』の内の二つはそういった特殊なマーケットの特性で生まれたのです。」

価格競争という概念はなく どうお客様・マーケットに適応していくか。

「吉野家には、価格競争という概念はありません。影響因子ではあるがあくまでも相対はマーケット(お客様)の期待や不満にどう向き合ってアジャストしていくか。お客様が感じるバリューの中に、品質と価格という二つの要素に大きな影響を据えてサプライサイドが自ら進化していく。その進化が与える影響が、マーケットとお客様に影響し、また変化するものにどう適応していくかだと思います。」

吉野家のネオプレゼンス。かけがえのない存在感とオリジナリティを創り直す。

「そのテーマとして大きく4つ。ファミリー、女性、シルバーというターゲットを新たに取り込むというところでの①商品価値②サービス価値創り。それに伴っての店のイメージや雰囲気づくりという③モデル創り。そして常識をリセットして収益モデルの構築とそれに耐えうる組織の体制づくり④構造創り。サプライサイドは増え続けピークを越え、日本は人口も減少して行く中で、新しい価値を構築し、オーバースペックを変えていく。長期レンジで必要な時間をかけ、5年後にしか成果はでないかもしれないが、早く着手しないとそこにはいけないということです。」

「人育つには「10年と10億かかる」

「私は、吉野家のバリューを進化させ、継承させていかなければならないという役割認識が社長になった時から強かった。そういう意味では、創業者は自己実現の発揮を。二代目以降は、創業時創りだされた固有のものを未来にどういった姿形で繋いでいくかということ。時代に合わせて変えるものは変えて進化させていくという役割だと思います。今の社長を後継として説得するのに約2年半かかりました。社長業というのは、一つの事業をもう少し小さい規模でやるのが面白い。大きくなると何とも言えないじれったさのようなものがある。今の社長には、自己実現の発揮より使命感の方がステージが高いんだという事を伝えました。彼はその使命感でやるという事を覚悟してくれた。」

「私が準備したことは、予め年数を要して育てる事が必要だし、マネジメントはうまいけど、未来へのヴィジョナリーな経営ができるかどうかというのは、これはやらせてみないとわからないんです。ステップアップさせながら、その中で大事なのは自立と挑戦ですね。自分でリスクテイクして、面白みを感じて、向かっていく人というのがメンタリティとして必要。そして当然スキルも必要。そして成果を上げていく。いくら役に立ちたい、新しい事にチャレンジしたいといっても、それにはちゃんとパフォーマンスを発揮できるスキルがないといけない。それはやらせてみないと分からない。成果を見ながら向き・不向きと挑戦しているか、喜びを持っているか、成果を現していけるかどうかのためのパワー。可能な限りそれは早い内からやっていかないと。だから私はおおげさに一人育つには『10年と10億かかる』と言っていました。」

緑の杜
Midori no Mori

当金庫では「みどり豊かな郷土」を次世代に引き継いでいくために、森林づくりや、環境緑化に取り組んでいます。「緑の杜」事業の一環として、平成23年11月に「かしんの森定期預金」を販売。当該預金の残高の一定割合を当金庫から拠出し「公益財団法人かごしまみどりの基金」へ寄付を行いました。その後、平成24年には「鹿児島県」、「公益財団法人かごしま緑の基金」と「鹿児島県民の森の森林整備に関する協定」を締結、毎年、「チャリティー演奏会」等において皆さまから寄せられた募金の一部を寄付させて頂き、鹿児島県の森林整備に役立てていただいております。

今年度の当金庫の取り組みについては、平成28年4月29日かごしま県民の森にて開催される「みどりの感謝祭」において、森林整備に取り組んでいる企業として感謝状を頂きました。また、平成28年8月18日には鹿児島県より「かごしまCO2吸収量認証制度」に基づき、認証書の交付を受けております。また、緑の感謝祭当日は、かごしま県民の森敷地内において、当金庫職員と家族による下草払い作業や、植樹作業などの森林づくり活動も同時に実施しています。

教育の杜
Kyoiku no Mori

KKB硬筆コンクール

平成28年8月7日、当金庫が特別協賛している「第27回KKB硬筆コンクール」の表彰式が開催されました。当コンクールは、文字を正しく、整えて、丁寧に書くことを大切にする心を育み、文字文化の振興と発展に寄与することを目的としており、当金庫も「教育の杜」事業として第23回(平成24年)より協力しています。

第27回を迎える今回は、県内外の学校や書道教室等から470点を超える応募があり、特別賞の62点をはじめ多くの方々が受賞されました。審査委員長より「どの作品が受賞してもおかしくないほどの出来栄えであった」との講評の通り、出展者の日々の研鑽と指導者の熱意が強く感じられる作品ばかりでした。表彰式では、特別賞の一つとして、鹿児島信用金庫賞を4名の方々が受賞されました。

皆様の力作の数々は受賞式後、かしんアイホールビル3階「かしんアイギャラリー」にて、「第27回KKB硬筆コンクール特別賞受賞作品展」を開催し展示いたしました。また、アイギャラリーでの展示後は、作品の一部を「KKB硬筆コンクール地方巡回展」として各営業店にて展示しております。